

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度(評価)
 A:十分達成できている
 B:おおむね達成できている
 C:やや不十分である
 D:不十分である

学校名	唐津市立長松小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度(令和3年度)は新型コロナウイルス感染症対策のため、思うように行事や地域との交流を進めることができなかった。次年度も引き続き感染症対策を行っていきながら、行事や交流を進めていくとともに、学校の情報発信に努めたい。 ・学力向上では、一定の成果があった。有効であったと思われる取り組みを検証し、引き続き進めていきたい。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」について、思うように成果を上げることができなかった。業務、行事等の見直しを行い時間外勤務の削減に努めたい。
2 学校教育目標	<p>「笑顔」いっぱい学校 長松小 ～いつでも どこでも 気持ち(玉)みがき～ 「おもいやり」「がまん」「しようじき」「気づき」「感謝」の気持ちを育てよう</p>
3 本年度の重点目標	<p>◎信頼される学校づくりとコミュニティスクールの推進</p> <p>①心身ともにたくましい子(保体部) ②当たり前のことができる子(生活部) ③みんなで伸びようとする子(特活部) ④自ら学び、考える子(学習部)</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・学力向上対策評価シートや学力アクションプランチェックシートを活用し、学力向上のPDCAサイクルを確立させるとともに、校内研究を充実させ、個々の授業力の向上を目指す。
●心の教育	○自分の考えを伝え合い、深め合う(対話活動)や学習内容や学び方を振り返る「振り返り」の充実 ○理由や要点、筋道を立てて考えたこと等を文章で書いたり、説明したりする活動の充実	○学校アンケートで、「見直しをもって学習した」「対話活動で自分の考えを相手に分かりやすく説明した」「振り返ること身に付いた力を確認できた」と肯定的な回答をする児童85%以上。	・学習計画を立て、見直しをもって主体的に学習に取り組みむことができるようにする。 ・学習内容や学習過程を振り返らせることで、次の学習に活用できるようにする。 ・必要性のある対話活動を設定し、児童の書くこと、対話することへの意欲喚起へと繋げる。	B	・研究の3つの柱に沿った授業実践により、佐賀県学習状況調査結果では、思考力・判断力・表現力の向上が見られた。一方で、知識・技能は引き続き指導を続ける必要がある。 ・全校研や各学年グループごとの今年度の研究を振り返り、研究のまとめを作成して、次年度以降の授業改善・学力向上につなげていくことができる。 ・児童アンケートの肯定的な回答の結果「見直しをもって学習した」93.6%「対話活動で自分の考えを相手に分かりやすく説明した」80.7%	B	・3年生の英語活動では、みなさんが楽しいように元氣よく勉強されているところが見えます。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケート「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」に対して肯定的な回答をした児童が85%以上	・道徳教育を中心とした全教育活動での心の教育 ・人権教室を通して児童の人権意識の向上を図る。 ・「あいさつ」や「心遣い」の指導を重視。 ・「ふれあい道徳」など授業公開を通して保護者の理解を深める。	B	・生活部で年間を通して「あいさつ」や「思いやり」などを月目標に設定して取り組んできたので、相手を意識して行動を知る児童が増えた。 ・人権教室や平和学習などを通して、児童の人権意識の高まりがうかがえた。次年度も継続させたい。 ・児童アンケートの肯定的な回答の結果「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」95.7%	B	・挨拶をしない子どもが多い
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○児童アンケート「なかよしの友だちがいる」「学校は楽しい」と答えた児童が85%以上 ○不登校傾向児童の数を前年度より減らす。	・児童へのアンケートを実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努める(毎月初めに実施) ・生徒指導協議会で、気になる児童については、情報を共有し、担任まかせにせず学校として対応していく。	B	・毎月アンケートを実施し、いじめ等の早期発見に努めた。いじめと思われる事案については、担任任せにせず、管理職を交え組織的に対応することができた。(毎月のアンケート予定通り実施) ・生徒指導協議会で、気になる児童については、情報共有し、必要に応じてケース会議を開き組織的に対応することができた。 ・教育相談にかかる、保護者への案内を学期ごとに行いSCの活用に向けた。 ・児童アンケートの肯定的な回答の結果「なかよしの友だちがいる」94.2%「学校は楽しい」94.7%	B	・いじめ防止標語は大変優秀な標語が出ており、いじめのない学校と思います
●健康・体づくり	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)85%以上	・道徳や総合の時間だけでなく、国語科の単元とも関連させながら、将来について考える時間を設定することができた。振り返りができるようにキャリアパスポートにファイリングした。 ・コロナの影響も少なく、お世話になった地域の方々への感謝の会を児童会主催で行うことができた。改めて地域の方々を招くことで、お世話になったことを再確認することができた。	B	・道徳や総合の時間だけでなく、国語科の単元とも関連させながら、将来について考える時間を設定することができた。振り返りができるようにキャリアパスポートにファイリングした。 ・コロナの影響も少なく、お世話になった地域の方々への感謝の会を児童会主催で行うことができた。改めて地域の方々を招くことで、お世話になったことを再確認することができた。	B	・
	●「運動習慣の改善や定着化」	○授業以外で外遊びや運動・スポーツを行う時間が1週間で300分以上の児童生徒60%以上を目指す。	・屋休みの体育館解放による、運動遊びの推奨。 ・天気の良い日の、放送委員による外遊びの呼びかけ。 ・学期末に、クラスごとにアンケートを実施。(紙・タブレット・拳手を学年の実態に合わせて)	B	・体育館使用のほうは、ほぼ毎日どこかの学級が使用していて、運動遊びの充実につながった。 ・運動場でも遊ぶ子どもも多く、外での遊びを楽しみにしていた。 ・周知不足でアンケートの実施は行っていない。	B	・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上を目指す。	・年2回の生活学習習慣100点運動を家庭と連携して行い、望ましい食習慣を身につけさせる。 ・日々の給食指導に加え、年4回の給食週間を設け、全職員で指導を徹底する。	B	・実施は1回行った。賞状があるので子どもたちも頑張っていた。 ・給食指導週間では、動画視聴や放送で、食料流通への感謝の気持ちを育むよう取り組んだ。よい振り返りなども聞くことができた。 ・児童アンケートの肯定的な回答の結果「健康に食事は大切である」97.2%	B	・
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外勤務時間調査を毎月20日に中メシ、50時間超の職員へのヒアリング(声掛け)の実施。 ・放課後の時間外勤務を2時間30分と設定し、全員が19時15分退勤とすることで、計画的な業務の効率化を図る。 ・月に2回18時15分に退勤する日を事前に設定し、業務の効率化を図る。 ・各学年グループで、定時退勤日を月に2回設定し、ワークライフバランスを図る。	B	・休日前18時15分退勤、平日19時15分退勤については、すべての職員が実行できている。 ・次年度も一層の業務効率化に向けて取り組んでいく必要がある。 ・学年グループでの退勤時間の設定は進んでいない。	B	・業務が多いのか夜にも先生方の顔が見られる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○業務効率化の推進とコロナ禍における業務及びwithコロナを見据えた業務の改善	○これらを見据えて学校行事の見直しを行い、検討する。	・コロナ禍の状況下でも実施できる新しい行事の立案、これまでの行事の修正を図る。 ・コロナ禍で中止した業務を見直し、支障のない行事については、そのまま削減・縮小していく。また、削減・縮小した行事については、1年かけて必要性を検討・判断する。	B	・コロナ対応が大きく変わる次年度に向けて、一層の効率化に向けて、各部で取り組みを進めている。 ・今年度、中止・縮小した行事については再実施するかどうかを検討している。	B	・

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○長松コミュニティの推進	○地域・保護者ボランティアの増加 ○児童による地域貢献	○昨年度のボランティア延べ人数(164名)を、コロナウィル感染症の流行状況に留意しながら上回る。 ○地域の行事やボランティア活動に楽しんで参加する児童を増やす。	・コミュニティ通信を地域の回覧で回したり、HPに掲載したりして、地域と共に活動する輪を広げる。 ・地域行事への参加啓発や、校区的ゴミ拾い活動を定期的に行う。	A	・地域の方との交流、花いっぱい運動など、いろいろな活動の再構築と共に、キャリア教育などでの講師招聘や、地域の高校生との交流活動などの交流もスタートさせた。今年度の学習支援やボランティアで関わって頂いた方の人数は延べ424名となり、目標値や昨年度の数字を大きく上回った。	B	・新たな活動を始められずばらしいことと思います。ぜひ来年も継続していただきたい。
○学校教育目標の周知徹底	○本年度の学校目標「笑顔」いっぱい学校 長松小 ～いつでも どこでも 気持ち(玉)みがき～ を、職員・児童・保護者・地域に周知させる。	○独自アンケートと学校評価アンケートで、長松小の教育目標を答えられる児童・保護者の割合共に90%以上。	・各教室に学校目標を提示し、職員と児童が学校目標を意識できる環境をつくる。 ・学校だよりや学級だより等を通して、保護者や地域にも学校の取り組んでいる内容を知らせる。	B	・えがおの木通信、CS通信、学校だよりの発行、HP等を通して、学校目標を意識できる環境づくりに努めた。独自アンケートでは、約96%の児童が学校目標を答えることができた。 ・特に学校通信やHPにおいて、保護者だけでなく地域の方にも学校の活動内容を知らせることができている。	A	・
○仲間づくりの実践	○コミュニケーションスキルの実践 ○交流活動の実践	○児童アンケートで「仲良しの友だちがいる」「困った時、はげましてくれる友達がいる」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合85%以上。	・Q-Uテストを活用し、児童の実態把握に努め安心して過ごせる学級づくりに努める。 ・学年・学級でSCを活用した仲間づくりの取り組みを行う。 ・特別活動を中心に縦割り活動等の異学年交流の充実を図る。	B	・Q-Uを実施後、研修会で結果の分析を行い、学級づくりに生かすことができた。 ・学年ごとにクラスマッチや縄跳び大会をするなど、よりよい集団づくりが行われた。各学級に対しても、仲間づくりの取り組みを推進することができた。 ・兄弟学級での交流、縦割りでの活動を昨年度よりも充実させることができた。	B	・

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたので、学校行事や地域との行事の一部を復活し実施することができた。これからも感染状況等に気をつけながら、各種行事を精選しつつコロナ前に戻していきたい。 ・学力向上では、一定の成果があった。有効であったと思われる取り組みを検証し、引き続き進めていきたい。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」について、少しずつ成果が見えてきた。Withコロナを見据えながら、さらなる業務、行事等の見直しを行い時間外勤務の削減に努め、児童と笑顔で向かい合う時間を増やすとともにワークライフバランスを図りたい。
----------------	--